

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察特殊報第4号を下記のとおり発表したので送付します。

平成26年度病害虫発生予察特殊報第4号

平成27年2月10日

岡 山 県

1. 病害虫名 キュウリ黒点根腐病
2. 病原菌名 *Monosporascus cannonballus* Pollack & Uecker
3. 発生物名 キュウリ (カボチャ台木)
4. 特殊報の内容 岡山県でのカボチャ台キュウリにおいて黒点根腐病の初発生を確認
5. 初発生確認月日 平成26年7月31日
6. 発生確認場所 岡山県北部
7. 発生面積 2a
8. 発生の経緯

平成26年7月に岡山県北部のハウスキュウリ圃場(1圃場)で、地上部が萎凋し、根が褐変腐敗する症状が発生した(図1)。被害株の根には、小黒点が多数形成されており(図2)、顕微鏡観察したところ、この小黒点は子のう殻で、子のう殻中には子のう胞子が多数確認された(図3)。県農業研究所において本菌の形態観察及び遺伝子診断を行った結果、キュウリ黒点根腐病菌 *Monosporascus cannonballus* と一致し、罹病根からの分離菌株をキュウリ及び台木用カボチャの幼苗に接種したところ、台木用カボチャでは症状が再現され、キュウリでも同様の症状が確認された。原病徴が再現された症状部からは病原菌が再分離され、本障害は黒点根腐病と診断された。本県では、キュウリ(カボチャ台)黒点根腐病は初確認である。

9. 他県での発生状況等

キュウリ(カボチャ台)黒点根腐病は、平成23年に滋賀県で発生が確認されている。なお、自根キュウリでは、平成18年に岩手県で確認されている。

10. 本病の特徴

(1) 病徴

収穫期頃から地上部に萎凋症状が見え始める。発病初期には晴天の日中に萎凋し、朝夕や曇雨天には回復する。これを繰り返した後、急激に枯れ上がる。根は、初め細根が腐敗脱落し、残った根はアメ色に腐敗する。症状が進むと根部表面に直径0.3mm程度の小黒点(子のう殻)が形成される(図1、2)。

(2) 伝染経路

子のう殻が土壌中に長期間残存し、本病菌は子のう殻中で長生きする。種子伝染はしない。

(3) 宿主範囲

国内ではキュウリ、カボチャ台キュウリ、メロン、ユウガオ台スイカ、トウガン台スイカで本病原菌による被害が報告されており、接種するとメロン、キュウリ、スイカ、ユウガオ、トウガンに強い病原性を示し、ニガウリ、ヘチマ、アレチウリ、カボチャにも病原性を示す。

11. 防除対策及び参考事項

- (1) 発病株は見つけ次第抜き取って処分する。
- (2) 土壌の過湿や乾燥を避け、根の生長を促進し、被害の軽減を図る。
- (3) 本病の発生した圃場の耕起、整地を行った管理作業機は、そのまま無病圃場を使用すると付着した土壌によって汚染される恐れがあるので、作業機に付着した土壌は丁寧に洗い落とす。



図1 被害株の根部の症状

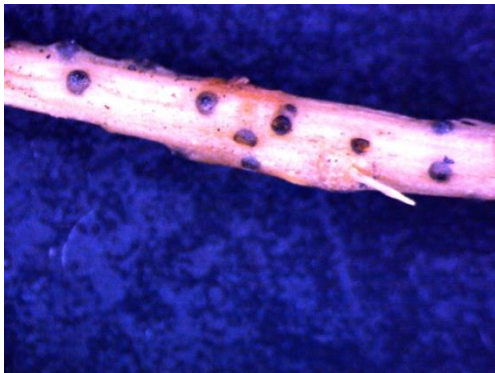


図2 根上に形成された小黑点(子のう殻)

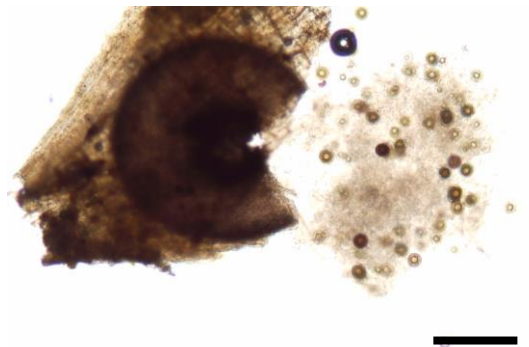


図3 押しつぶした子のう殻から放出された子のう胞子

バー：200 μ m

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239